長洲町教育委員会会議録

会議録	平成３０年度　第１７回　長洲町教育委員会会議		
招集年月日	平成３１年３月２５日（月）午後２時		
招集場所	長洲町役場　３階　第１委員会室		
出席者	委員会	教育長　戸越政幸、教育長職務代理者　坂本裕文、 田中伏美委員、隈部壽命委員、徳田美津子委員	
	事務局	学校教育課	学校教育課長　松林智之 学校教育課課長補佐　金森秀益
		生涯学習課	生涯学習課長　藤井　司
欠席者	なし		
職務説明責任者	松林 学校教育課長		
会議録作成者	松林 学校教育課長を指名		

日程番号	事件番号	事　件　内　容
第　１		議事日程について
第　２		会議録署名委員の指名について
第　３	議案第２７号	平成３１年度教育委員会事務局職員の異動について 【非公開】　（学校教育課・生涯学習課）
第　４	議案第２８号	長洲町地域学校協働活動運営委員会設置要綱の新規制定について　（学校教育課）
第　５	議案第２９号	長洲町地域学校協働本部設置要綱の新規制定について　（生涯学習課）
第　６	議案第３０号	長洲町放課後子供教室推進事業実施要綱の一部改正について　（学校教育課）
第　７	議案第３１号	長洲町市域教育コーディネーター育成・活用事業実施要綱の一部改正について　（生涯学習課）
第　８	議案第３２号	長洲町適応指導教室設置要綱の新規制定について （学校教育課）
第　９	議案第３３号	長洲町特別職の非常勤職員の任用等に関する要綱の一部改正について　（学校教育課）
第１０	報告第３８号	平成３１年第１回町議会定例会における一般質問の答弁内容及び当初予算等について （学校教育課・生涯学習課）
第１１	報告第３９号	就学援助に関する準要保護者認定について （学校教育課）

日程番号	事件番号	事　件　内　容
第１２	報告第４０号	平成31年３月校長会について　　（学校教育課）
第１３	報告第４１号	生徒指導について【非公開】　　（学校教育課）
第１４	議案第３４号	長洲町教育委員会事務局処務規程の一部改正につい 【非公開】　　（学校教育課）

開会（午後 2 時 00 分）

（事務局）

皆さまおはようございます。ただいまから、第 17 回長洲町教育委員会議を開催いたします。

なお、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 13 条第 1 項に基づき、会議の議事進行を教育長にお願いします。

（戸越 教育長）

はい。おはようございます。本日は、出席委員が定数に達しておりますので、この会議が成立することを報告します。

あらかじめ、お諮りします会議の議題は、事前に通知したとおりでよろしいでしょうか。なお、日程番号の第 3、議案第 27 号、日程番号 13、報告第 41 号、日程番号 14、議案第 34 号につきましては、個人情報が含まれる案件ですので、非公開としますがよろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

（戸越 教育長）

日程番号第 1、議事日程について、本日 1 日間とします。よろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

（戸越 教育長）

日程番号第 2、会議録署名委員の指名について、隈部委員を指名します。

（隈部 委員）

はい、お受けいたします。

（戸越 教育長）

日程番号第 3、議案第 27 号について、事務局から説明をお願いします。

（議案第 27 号　学校教育課長説明）

（戸越　教育長）

この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。

特にないようですので、議決します。

（異議なしの声あり）

この件に関しては、終わります。次に行きます。

日程番号第 4、議案第 28 号について、事務局から説明をお願いします。

（議案第 28 号　学校教育課長説明）

（戸越　教育長）

この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。

なければ、議決します。

（異議なしの声あり）

それではこの件に関しては、終わります。次に行きます。

日程番号第 5、議案第 29 号について、事務局から説明をお願いします。

（議案第 29 号　生涯学習課長説明）

（戸越　教育長）
　この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。
（隈部　委員）
　協働本部は従来からあったものか。
（藤井　生涯学習課長）
　今回新規で設置するものです。
（隈部　委員）
　コーディネーターは何も表記されてなくていいのか。
（松林　学校教育課長）
　コーディネーターが支援員に名称が変わります。県の政策で色々変わるところもありますが、以前はコーディネーターと支援員を両方置くときもありましたが、最終的にはコーディネーターが新しい支援員という形になるという解釈でお願いします。
（隈部　委員）
　コーディネート会議は年3回開催とあるが、何をするのか。
（藤井　生涯学習課長）
　まずは、活動の内容の企画立案でありまして、各学校で同じ事業をしている方、同じ学校の中でも学校支援と放課後があるので、ボランティアの方の情報交換、関係者間での配置の調整など、学校の先生も含めた会議になるので、活動を進めるうえでの最初の会議、ボランティアの方を学校支援に配置したり、放課後子供教室にも協力を依頼したり。なおかつ、評価・検証というのは実際に携わった皆さんの反省、課題を話し合う。なかなか今までが学校の先生を含めた話し合いの場がなかったので、成果を次につなげるという意味で、実際にどういった成果があったのかの評価・検証が必要だという考えのもと、国が示している評価・検証を今後継続してより良い活動を進めていく上では必要ですので、協働活動なので、地域との協働ということで、地域づくりの観点から活動のシェアが広まることを想定して、まずは、学校支援事業と放課後子供教室の連携協力していく上での一番の打ち合わせ会議になります。
（隈部　委員）
　協働本部会議とコーディネート会議はどういう関係か。
（松林　学校教育課長）
　協働本部会議の予定はないです。統括推進委員は置かないので、2人の推進委員が本部長と教職員、町の教育委員会の担当者の 3 人になりますので、そのコーディネート会議を開催します。
（隈部　委員）
　コーディネート会議はする必要がある。月1回ではなくて年3，4回。協働本部会議については開かなくてもよい。義務ではないので。
（松林　学校教育課長）
　各学校ごとの会議は隋時、6校すべて集まる会議が年3回予定しています。
（隈部　委員）
　コーディネート会議を地域本部会議という形で年3，4回このメンバーで開催する。コーディネート会議が意味合いが 2 つあるのでそこにした方がいいのではと思う。コーデ

ィネート会議を月１回というところを、協働本部会議で年 3～4 回メンバーはコーディネーターさんで。コーディネーター会議はまた別に月 1 回それぞれやっているので、同じ名称にすると混乱してしまう。

（松林　学校教育課長）

国が示す本部というのは学校ごとに設置する本部になります。中学校ごとでもいいですし、今回、長洲町として１つに、まとめたものです。

（藤井　生涯学習課長）

1 週間ぐらい前に県の教育事務所であった会議の資料には、コーディネート会議をしているかどうかでカウントするということでした。

（松林　学校教育課長）

名称を違う名称に変えることができればいいですが。協働本部は各活動単位ごとでもいいのではと思います。

（隈部　委員）

それを町単位にしたということか。町単位にしたら一番上が本部になるのでは。

（松林　学校教育課長）

構成が変わってくるので、構成はあくまでも資料の 1，2，3 の方々がメインになってきます。県内の事例としまして、合志市は学校の PTA が本部を受け持っています。

（藤井　生涯学習課長）

各中学校ごとに PTA が本部としてやっているのをまとめて運営委員会として市が意見を聞くという形です。

（田中　委員）

そこは学校運営協議会があるのですか。

（藤井　生涯学習課長）

本部それぞれを統括してみるのが運営協議会となっているようです。

（松林　学校教育課長）

運営協議会になると外部委員として地域の方が入ってくることも想定する必要があります。

（隈部　委員）

中学校ごとでやると何が問題としてあるのか。

（藤井　生涯学習課長）

事業自体が学校支援と放課後ですので、今でいうコーディネーターさんが兼務されている部分もあるので、学校支援で言えば 6 校、これもそれぞれのコーディネーターさんで 3 校持たれています。放課後子供教室で言えば今も会議を行っていますが、4 校全体、学校支援は 6 校全体でした方がボランティアさんのコーディネートの連携情報交換が出てきますので、それぞれのコーディネーターさん、支援員さんの悩みだとか相談される場合の共通の悩みも学校特有の悩みもあるだろうし。そういうことの情報共有がやりやすいのかなと思います。

（松林　学校教育課長）

先ほど提案が出ました、コーディネート会議の名称は協働本部会議に変更したほうがいいのであれば、協働本部会議が解りやすいと思います。県に確認して OK だったら協

働本部会議に変更します。駄目でしたらコーディネート会議でいきたいと思います。
（戸越教育長）
その時はコーディネーター会議の名称を変えないのか。
（松林　学校教育課長）
月１回のコーディネーター会議は要綱には謳っていませんので、この名称を使用しても差し支えないです。
（藤井　生涯学習課長）
今年は年３回くらいしか開催していないので、月１回ぐらいした方がいいのかなと思っています。
（戸越　教育長）
それでは、その辺のところを再確認することでよろしいでしょうか。
それではこの件に関しては、議決します。
（異議なしの声あり）
次に行きます。
日程番号第６、議案第 30 号について、事務局から説明をお願いします。
（議案第 30 号　学校教育課長説明）
（戸越　教育長）
この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。
（隈部　委員）
寺子屋学習塾が新規で入ってきたが、これの趣旨とか、対象とか、が感覚的になし崩し的に勉強を教えるもの、学習を推進するものみたいになっているのが、それをはっきりさせておかないと、単に学習塾の無償版みたいになるのでは。
（松林　学校教育課長）
寺子屋学習塾については平成 28 年度から単独で実施をしてきておりまして、今年度は放課後子供教室のカリキュラムの一つとして位置付けて実施しております。子供教室の事業として正確に位置付けた方がいいということで、今回要綱に盛り込んでいます。何をするか、どういったプログラムをするのかは、この要綱とは別に定めて、そこで詳しく、規則や規約で位置付けたい考えています。
（隈部　委員）
そこが一番大事でフレンズが一つになって色々問題が出てくるのではないかと感じている。そこをはっきりしておかないといけないのではと思う。ここに寺子屋学習塾学習支援員という言葉が突然出てくると、何かわからないのでは。
（松林　学校教育課長）
お手元の資料は新旧対照表なので全文が載っていませんが、全文には子供教室では何をするのかとかを位置付けています。実施内容の詳細については、時間は何時から、どういう方を配置する、どういう教科をする、などは別で定めてあります。今回は子供教室の中でこういう学習支援員を配置して学習を子供教室の中でやっていくということで、文言を追加しているものです。
（徳田　委員）
それは別のもので決まっているのですか。

（松林　学校教育課長）
　今年度と準じるものになりますが、変わるのが、指導者の方で今年度までは NPO の熊本学習支援センターネットワークと委託契約していましたが、先方と色々調整する中で来年度人員の配置や経理の関係も厳しいということで、指導者が変更になります。直営で雇い入れることになりますので、人選が必要になります。
（隈部　委員）
　学習支援の補助員と協働活動サポーターというのは誰がどういうことをするのか。
（松林　学校教育課長）
　解りにくいとは思いますが、今までのコーディネーターが支援員になります。放課後の事業の中でもコーディネーターについてカッコ書きにしてわかりやすくしていますが、コーディネーターの方が協働活動支援員であり放課後の支援員です。教育活動サポーターという方が以前の安全管理員のことで放課後のスタッフになります。さらに勉強を教える方が寺子屋学習塾の指導員で学習支援員と補助員の名称になります。
（田中　委員）
　補助員は今も配置しているのか。
（松林　学校教育課長）
　現在も教員免許を持っていない方を補助として配置しています。
（田中　委員）
　仮に私たちが寺子屋に入るなら、補助員として時給が上がるということか。
（松林　学校教育課長）
　そうです。
（徳田　委員）
　教員を目指す大学生という条件はあるか。
（松林　学校教育課長）
　大学生も可能ですが、教員などの指導者を志すものとした適性があるかどうかの判断が必要になると思います。
（田中　委員）
　現状としては人材がいないのでかぶっているとこがある。プラス、児童クラブのスタッフは何でした。
（松林　学校教育課長）
　学童保育の支援員です。その中でも主任の先生は免許を持った方です。
（田中　委員）
　小学校の支援員は何でした。
（松林　学校教育課長）
　特別支援教育支援員と図書の整理などをされる方が学校教育推進員です。この後出てきますが、学校支援も同じコーディネーターという名称を使っていたので、そこも変更しています。
（戸越　教育長）
　他ございませんか。
（田中　委員）

全文はまた今度確認させてください。

（松林　学校教育課長）

はい。準備しておきます。

（坂本　職務代理者）

寺子屋学習塾の委託先を来年度はどうするのか。

（松林　学校教育課長）

今年度はNPO法人と委託契約をしておりましたが、来年度は個人の方に直接雇用することになります。個人の方とは委託契約が出来ませんので、謝金として報償を支払う形になります。12ページに別表で定めた1時間当たりの単価で報償として支払うことになります。

（坂本　職務代理者）

NPOとは切れるということ。別の方が個人的にお願いするということか。

あてはあるのか。

（松林　学校教育課長）

NPOの中で指導していた宮崎先生はまた子供たちと携わりたいと言ってくれているので、個人的にお願いしたいと思っています。

（坂本　職務代理者）

学習指導の場合には人材がとても重要。ここの人材をしっかりしてほしいと思う。

（松林　学校教育課長）

はい。これから募集をかけますが、委員の皆さんの中で、教員免許をお持ちの方をご紹介していただければ助かります。指導者の選考については、面接を行いまして、実施前にこの会議でお諮りします。

（戸越　教育長）

今のご意見はとても重要だと思います。

他にありませんか。それではこの件に関して、議決します。

（異議なしの声あり）

次に行きます。

日程番号第7、議案第31号について、事務局から説明をお願いします。

（議案第31号　生涯学習課長説明）

（戸越　教育長）

この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。

（隈部　委員）

この件はコーディネーターを支援員と直せばいいということか。中学校区ごとにということは小学校も含めて支援員を配置するのか。

（松林　学校教育課長）

小学校、中学校単位ごとにしていますが、これは3校まとめての支援員です。

（隈部　委員）

今まではいなかった。

（藤井　生涯学習課長）

今までは、長洲小、清里小、長洲中に学校支援コーディネーターがそれぞれいました

が、一人の方が全部をされる。それが支援員になります。
（松林　学校教育課長）
　支援員は各学校支援の事業と放課後子供教室の事業のそれぞれに携わる支援員です。
　推進員はそれぞれの中学校ごとに全ての事業をリードする方です。
（田中　委員）
　これでは推進員までは触れなくていいのか。
（松林　学校教育課長）
　本部事業の方に入れていますので。
（田中　委員）
　社会教育法が変わったから変えなくてはいけないということ。
（徳田　委員）
　名称が紛らわしい。
（藤井　生涯学習課長）
　社会教育法の今回の改正で一番変わったのは推進員が出てきたところです。新規で設置しなさいというのが出てきました。今までコーディネーターといっていた部分の名称がコロコロ変わって、最終的に支援員に落ち着いたということです。
（田中　委員）
　本当は各学校に置くべきですよね。そういう方向を目指しているのですか。
（藤井　生涯学習課長）
　今回の要綱は中学校区ごととしていますが、本来であれば各小中学校ごとが望ましいと思います。取り敢えず長洲町の現状に応じて中学校区ごとにしています。
（隈部　委員）
　各学校ごとに置かなくてもいい仕組みづくりをしながら、例えば人材バンクを完璧にしてしまえば、あとはそこから人材を選んでお願いできるような仕組みにしておけばいい。
　理想的だけどそういう取り組みをしながらやっていかないと、人がいないから、しょうがないから、まとめて一緒にというのは取り組みにならないのでは。
（藤井　生涯学習課長）
　学校支援の支援員の仕事は今後減っていくのではないかと考えています。それは、コミュニティ・スクールが進んでいって学校と地元が直接つながって学校の授業や地元のイベントがお互いに協力していければ必然的にコーディネーターの仕事は減っていく方向で進むのがいいのではないかと考えています。
（隈部　委員）
　コミュニティ・スクールは実働としてやれる人が減っているわけじゃないので必ずしも手助けになるのとは直結しないのではないか。どちらかというと、方向性を決めたり、全体の流れを考えたり、というのがコミュニティ・スクールなので、現場で調整していく人は必要なのでは。
（松林　学校教育課長）
　元々コーディネーターという役割の方は地元に詳しい方であったり、ボランティアの方を新規で発掘したり、学校と児童生徒の間の調整役を担っていたものです。学校と地域がつながっていけばコーディネーターという方はいらなくなっていくのではないかと

思われますし、国も県もそこを目指しています。なので、名称はあくまでもコーディネーター、調整役。そこがまだ、軌道に乗らず、学校の先生たちの異動もある中、地域の方の協力が減ってきたり、新しく協力される方も少なくなってきたり、ということでそのまま名称が変わって残ってきたものです。コミュニティ・スクールでも学校運営協議会が実働ではないので、学校と地域の方との情報を広く地域の方に知ってもらって、有志の方が出てくるようになれば自然とそういったものが成り立っていくのかなと思います。

現状ではまだまだ事業のとこまでやっているのかというと、先日の運営委員会の委員であるPTAの方もよくご存じでないということもあるので。もっと先生、PTA、教育関係団体、地域の方に知ってもらって、1回でも携わってもらえるようにしていかないと浸透しないのかなと思います。

（隈部　委員）

従来の名称はコーディネーター育成ということで、育成という言葉が入っているが、この意味は何だったのか。

（藤井　生涯学習課長）

学校支援を行う上で地域教育コーディネーターを育成しないといけないというのが初期段階にありました。活動しながら育成していくということで、今はそこも含めた上で学校支援活動に入れていくというものです。育成よりも協働活動を進めていくという段階に国も入っています。その中でも育成は毎年やっていく必要があります。育成を表に出すよりも協働活動を実施する中で研修なりで育成をしながら尚且つ、学校支援活動実施要綱の方で活動を進めていくための事項を定めているものです。

（隈部　委員）

育成という要素も入っている。

（藤井　生涯学習課長）

学校支援活動実施要綱は活動に関することで育成の方は協働本部の方に研修などがあるので本部の中で担っていきます。

（松林　学校教育課長）

段階的に国庫補助の名称が変わってきているのは、文科省が国の財務省に予算の確保のため、事業を見直した際に、名称を変えたいというのがあるようです。

（藤井　生涯学習課長）

社会教育の発展なので地元の人材育成という目的からのこういう事業名が付いていると思います。人材を発掘、育成してコーディネーターとして活用するという事業名です。

また、旧要綱には人材バンクの設置というのがありましたが、人材バンクがなかったとこに設置しなさいというのがありました。現在は、町の人材バンクもありますし、登録も含めて活用が必要だと思っています。

（徳田　委員）

町の人材バンクとボランティアの人材バンクは違うのか。

（藤井　生涯学習課長）

結局はそちらも含めたところになります。学校支援の人材バンクがあるが、町の方の人材バンクにも登録していただくことにします。

（戸越　教育長）

他にありませんか。それではこの件に関して、議決します。

（異議なしの声あり）

次に行きます。

日程番号第 8、議案第 32 号について、事務局から説明をお願いします。

（議案第 32 号　学校教育課長説明）

（戸越　教育長）

この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。

（隈部　委員）

第 1 条の心理的と情緒的は何が違うのか。

（松林　学校教育課長）

心理的は、能力の低さによるものがありまして、療育手帳などを持っていることがあげられます。情緒的というのは病名など診断名とかを含んでいるものです。特別支援の学級だと情緒学級というのがありますが、診断的にいろいろな病名がありそういったことで登校できない状態にあるということにあたります。

（隈部　委員）

それはそういうふうに書かないとよくわからない。精神的な病気と病気じゃないが心理的にという二つがあるということ。これでわかるのか。

（松林　学校教育課長）

第 4 条のところに通級できる児童生徒としてありますが、こういったとこで最終的に教育委員会、学校、保護者が判断するということにしています。

（隈部　委員）

心理的、情緒的では意味が分からないというのと、「復帰を支援することを目的として」と書いてあるのは復帰が最終目標なのか。必ずしも復帰を支援する必要はないのではないか。「その人が安定して学習ができる場所を提供する」でいいのでは。

（松林　学校教育課長）

学校に行けない状態の子供たちの学習面、生活面を支援するというところで、学校復帰を目指すために設置するのが目的です。義務教育なので保護者は学校に行かせる義務がありますが、心理的、情緒的理由、なんらかの事情で学校に行けない状態にある場合は、そういう問題を解決しつつ学習もしながら復帰を目指すというプログラムを立てながら最終的に復学を目指すということです。

（隈部　委員）

教育長の考えはどうですか。

（戸越　教育長）

必ずしも戻すというわけではなくて一つの目標ではあるがそこにこだわらずに子供の実情に合わせた自立や学習支援ができればと考えている。

（隈部　委員）

「安定して学習を進められるように育成する」でいいのでは。文言として。復帰を支援するとなると復帰ありきなので。違和感がある。

（松林　学校教育課長）

立場上学校に行けてない子供たちを学校に行けるようにする手段として設置するので。
（隈部　委員）
今の考え方として、学校がすべてではないという考え方に立つべきではないのか。そこを長洲町は開拓していっているというふうに考えるべきでは。
（戸越　教育長）
適応指導教室の指導員は、児童生徒それぞれの実態に合わせて集団生活への適応や、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善などを目的に相談を受け、これに対する適応指導（社会を生き抜く力の育成、コミュニケーション能力の育成）等を行う。
（生涯学習課　藤井課長）
文科省の設置の目的の中の教育支援センターというのがある。センターの設置の目的は、不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための、相談、適応指導を行うことにより、その学校復帰を支援し、もって不登校児童生徒の社会的自立に資することを基本とする。となっている。
（隈部　委員）
それはそれであって、長洲町としてはどうするのか。という考え方を持つべきだ。そういう意味で、学校に戻すことを最終目的にするのではなく、その人の生活、学習発展をめざす、ということでとどめておくべき。
（戸越　教育長）
学校復帰を最初から全く考えていないというわけではない育て行った人はその時点で学校に帰ればいい。ただし、どうしても復帰させるという取り組みではない。
（徳田　委員）
すること、と言い切っているので、強い感じがする。もう少し柔らかい感じのいい方に変えた方がいいのでは。
（隈部　委員）
さっき教育長が話された、藤井課長が言った最終的にはそこにいってるのは、そこだけ取れば、無視すればいいのでは。
（松林　学校教育課長）
教育支援センターであったり、他の自治体にもこういった教室があるが、そういったとこに準じていくとこうなる。
（隈部　委員）
準じる必要ない。長洲町はどうなんですか。という話なので。
（徳田　委員）
子どもたちのことを考えるとどうなんでしょう。本音は学校に行きたいけど行けない。
（松林　学校教育課長）
学校はどういうものか問われるのではないか。学校に行かなくてもいいのか。その代替えは何かあるのか。
（戸越　教育長）
なぜフリースクールがあるか。いろいろな学ぶ場所があっていいのではないか。義務教育を否定するのではなく、学校に行けない子供をフリースクールで救う。適応指導教

室で救う。学校に戻すためにやっていくと失敗する例が多い。そこはある程度柔らかくしておかないと、子供のニーズに合わせておかないと、焦らずやっていくようなことを考えておかないといけないのではないか。荒尾にある適応指導教室は卒業証書はそれぞれの出身中学校でいただいているが、ほとんど学校には行かないで岱志高校に入学したり、定時制高校に入学していくという事例は結構ある。

（松林　学校教育課長）

あくまでも在籍は学校です。学校よりも適応指導教室が勉強もあまりしなくていいとか、いろいろな活動もできて過ごしやすいというふうに流れないためにということもあると思う。どうしても学校に行けない理由がある場合は最低限の学習はできます。でもゆくゆくは学校の方に帰るような努力をしていきましょう、というほうが。

（隈部　委員）

それはそれぞれの考え方なので、子供に応じた環境を提供して成長していけばよい。席としては学校に所属しているかもしれないけど、必ずしも縛られるものではないという考え方を持つべき。

（戸越　教育長）

目標と目的の違いでは。学校復帰は一つの目標ではあるが、やることはコミュニケーション能力をつけたり、将来自立していくための力をつけたりだとか、そのために学習支援をしたり、生活改善をしたり、

（田中　委員）

復帰を支援することを目的と言い切ってしまうと、それこそそっちに偏りがちになるのではないか。

（隈部　委員）

子ども自身がうまく適応していけることを狙っているでいいのではないか。

（松林　学校教育課長）

復帰だけ支援という形が目立っているので、復帰及び社会的自立を支援するということで、方法として復帰もある、こどもたちの自立の支援もあるということで追加するということでいいですか。復帰できる子には復帰してほしいというのがあるので。

（隈部　委員）

4条の「かつ、通級が可能な児童生徒」これは、適応教室と学校を行き来するということを言っているのか。

（松林　学校教育課長）

かつ、通級が可能ですので、自分たちの責任で適応指導教室への通級が可能。ということ。送り迎えはしないので、自分たちの責任で来ることができるということ。

（隈部　委員）

わかりました。

（坂本職務代理者）

この設置要綱は何月議会で提案されて、設置で動き出すのはいつなのか。

（松林　学校教育課長）

これは設置要綱なので議会に諮る必要はない。予算の方は3月の議会で承認をいただいた。予算は確保できている。

（坂本職務代理者）
　教育委員会で設置要綱が成立したらすぐ動き出す。
（松林　学校教育課長）
　附則で4月1日施行としているので4月1日から施工する。ただし準備があるので正式に動き出すのは6月後半か7月頭ぐらいになるのでは、4月、5月で準備をしていきたい。
（戸越　教育長）
　お二方には4月から辞令を渡して、教室の準備ができていないので役場に来ていただいて、空いているところで計画を立てたり、学校に出かけて詳しい実情を聞かれたり、家庭訪問なりでの、子供、保護者との面談あたりをしていただく。
（坂本職務代理者）
　人材はどなた。
（戸越　教育長）
　馬場陽一さんと西澤眞理子さん。3人目を探し中。馬場先生が主任で週5日。指導員を西澤先生で週3日。というところで動き出す。
（戸越　教育長）
　他にありませんか。
　それではこの件に関しては、終わります。
（異議なしの声あり）
　次に行きます。
　日程番号第9、議案第33号について、事務局から説明をお願いします。
（議案第33号　学校教育課長説明）
（戸越　教育長）
　この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。
（田中　委員）
　運動指導士というのがわからない。
（松林　学校教育課長）
　運動指導士というのはうちと関連するものはなくて、子育て支援かなにか、保育所か何かだと。
（戸越　教育長）
　本当はもっと単価をあげたい。しかし臨時職員の規約があって、作りたいというのが先にあったので妥協して。ペーパーを扱う仕事ではなく子供の心と関わって仕事していくのとペーパーを扱うのと単価が同じでいいのか。というのがあったが、作りたいのが先にあったので妥協して。実績を作りながら見直しをして改善していきたい。
（田中　委員）
　寺子屋学習支援員は1,800円ですよね。時間は短いですが。
（戸越　教育長）
　だからおかしいと思う。いざというときは命を預かる仕事なので。
（松林　学校教育課長）
　ちなみに教諭の資格をお持ちの方で日額6,000円､それでも長洲町は全体が低いので、

町全体でいろんな方の役職に応じた額が今後は必要かと思う。
（戸越　教育長）
絶対必要。そうじゃないといい人材は確保できない。事務的なものと、実際子どもと関わって教育をしていくのとは明確に違いを持っておかないいけないのではないか。事務には事務の大事さはあるが、教育ということで関わるということは見えないものがある。そこが一緒だと人材確保が厳しくなってくる。教育というのは関わる人によって全然違う、いい先生と出会わないと変わっていかない。いい先生を確保するためにはある程度条件をそろえないといけないのではないか。たまたま今回は声をかけやすい人だったので、良かったですが。
（隈部　委員）
二人は長洲の方ですか。
（戸越　教育長）
馬場先生は六栄、もう一方は天水の方。
ほか、ございませんか。
それではこの件に関しては、終わります。
（異議なしの声あり）
次に行きます。
日程番号第 10、報告第 38 号について、事務局から説明をお願いします。
（報告第 38 号　学校教育課長説明）
（戸越　教育長）
この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。
（隈部　委員）
給食センターの件は保留みたいなこと
（松林　学校教育課長）
当初予算の審議で、条件付きという付帯決議という、議員の方の提案で、法的根拠はないが、議会と町の施行部の条件付きということころで予算は可決した。その中で、給食センターの基本構想基本計画の委託料が 760 万程度計上していたが、その分は条件付きで認めるということで、その条件というのが、今現在、荒尾と長洲の教育委員会の事務レベル、担当者同士で協議を行ってきて、3 月 1 日の基本合意を結んだが、きちんとした協議の場を作って、協議の内容を議会に説明してくれということだった。最終的には自治法で認める協議会が必要になるが法定協議会なのか、そういったところまで立ち上げたら予算の執行を認めるという付帯決議がなされた。
（隈部　委員）
手続き上きちんとした手続きがされてなかったということ。
（松林　学校教育課長）
今の議会の体制が野党派の議員さんが多いので否決されることがある。執行部の方と議会と調整をするうえで何とか当初予算は社会保障とかいろいろなものが含まれているので、当初予算自体を否決されると町の状態に影響があるので、給食センターに限っては条件を付けて認めるということで納得していただいた。短い時間で決断したということもあるし、議会に対しても細かいとこまでの説明ができてない。期間が短い中での説

明が足りなかったというのを指摘されたので。今後きちんと項目も、結果も説明をして、協議会を立ち上げたときは執行をしてもよいという話。

（田中　委員）

先日、総合振興計画審議会というのに出て、本当は前もって皆さんに見ていただいて、ご意見を集約していけばよかったのですが、そこで磯野議員が事務局の方にいろいろ言ってて、そこで認められないというご意見だったので心配していた。

（戸越　教育長）

それは議会の前でしょう。彼も付帯決議を認めたということで、大きな 1 歩だった。

（隈部　委員）

ここの回答のところでコスト面とかの下りがないのはどうしてか。

（松林　学校教育課長）

再質問ではそういったところの説明をしてある。コスト面だけじゃないだろうと言われるとこもある。最終的にみて判断しなければならない。

（松林　学校教育課長）

一般質問の方を。32 ページをお願いします。

（以下、別紙により説明）

（戸越　教育長）

何かご意見ご質問はありませんか。

（隈部　委員）

ICT 関係はどこに。

（松林　学校教育課長）

45 ページの 15 の工事請負費というとこに、無線 LAN 環境整備工事費 4,823。これが中学校の分。

（戸越　教育長）

それではこの件に関しては、終わります。次に行きます。

（戸越 教育長）

日程番号第 11、報告第 39 号について、事務局から説明をお願いします。

（報告第 39 号　学校教育課長説明）

（戸越　教育長）

この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。

（徳田　委員）

係数が 1.3 以下という説明があったが、収入額がいくらか決まっているのか。

（松林　学校教育課長）

計算方式がややこしくて、世帯に応じて必要な控除額とかをのぞいたりする計算方式があるが、自動計算になっていて係数が出るようになる。

（徳田　委員）

大きな要因は何ですか。

（松林　学校教育課長）

扶養の人数、収入、ひとり親家庭でも収入が多いと認定できない。

（戸越　教育長）

他、ありませんか。

（隈部　委員）

31 年度の割合のとこを見ると落ちているのはなぜ。

（松林　学校教育課長）

要因はそこまでとらえていないが、転出転入もあるかと思うが、平成 31 年度は入学前だけ。H29 年は 106、H30 年は 121 で増えている。

（田中　委員）

4 月から他の学年が入ると、数字が似通るかもということ。

（松林　学校教育課長）

4 月入ってからも入学前の申請はできる。今回は前もってお金をいただきたいという方の申請なので。

（戸越　教育長）

他にありませんか。

それではこの件に関しては、終わります。

次に行きます。

日程番号第 12、報告第 40 号について、事務局から説明をお願いします。

（報告第 40 号　学校教育課長説明）

（戸越　教育長）

この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。

（隈部　委員）

1 番のコミュニティ・スクールの予定については我々にも下さい。

（松林　学校教育課長）

予定というか今後の調整をしていきたいので高森先生と学校長。次年度になったら校長、教頭が変わるのでその話し合いをしたいということでした。具体的に資料を出してということではなく。

（戸越　教育長）

他、ありませんか。なければこの件につきましては、終わりにします。

（戸越 教育長）

日程番号第 13、報告第 41 号について、事務局から説明をお願いします。

（報告第 41 号　学校教育課長説明）

－　報告第 41 号の質疑については、個人情報の保護の観点から非公開　－

（戸越 教育長）

日程番号第 14、議案第 34 号について、事務局から説明をお願いします。

（議案第 34 号　学校教育課長説明）

（戸越　教育長）

この件に関しまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願いします。

（田中　委員）

センターが整備された後はどうなるのか。

（松林　学校教育課長）

荒尾市と新たに整備される平成 34 年 9 月までの係になるだろうと考えている。運営形態にもよるが、係をそのまま残すのか、従来の教育総務係に戻すのかということになる。おそらく今回は荒尾市と建設をするうえで必要な係として設置するので、おそらく廃止になると思う。因みに、荒尾市の方は新学校給食センター整備推進室ということで、係よりも一つ上の「室」を設ける。そこには、室長と担当の二人を置く。

（戸越　教育長）

他にありませんか。なければこの件について終わります。

（戸越　教育長）

これで全ての日程を終了します。第 14 回長洲町教育委員会会議を終了します。

大変お疲れさまでした。

閉会（午後 5 時 12 分）